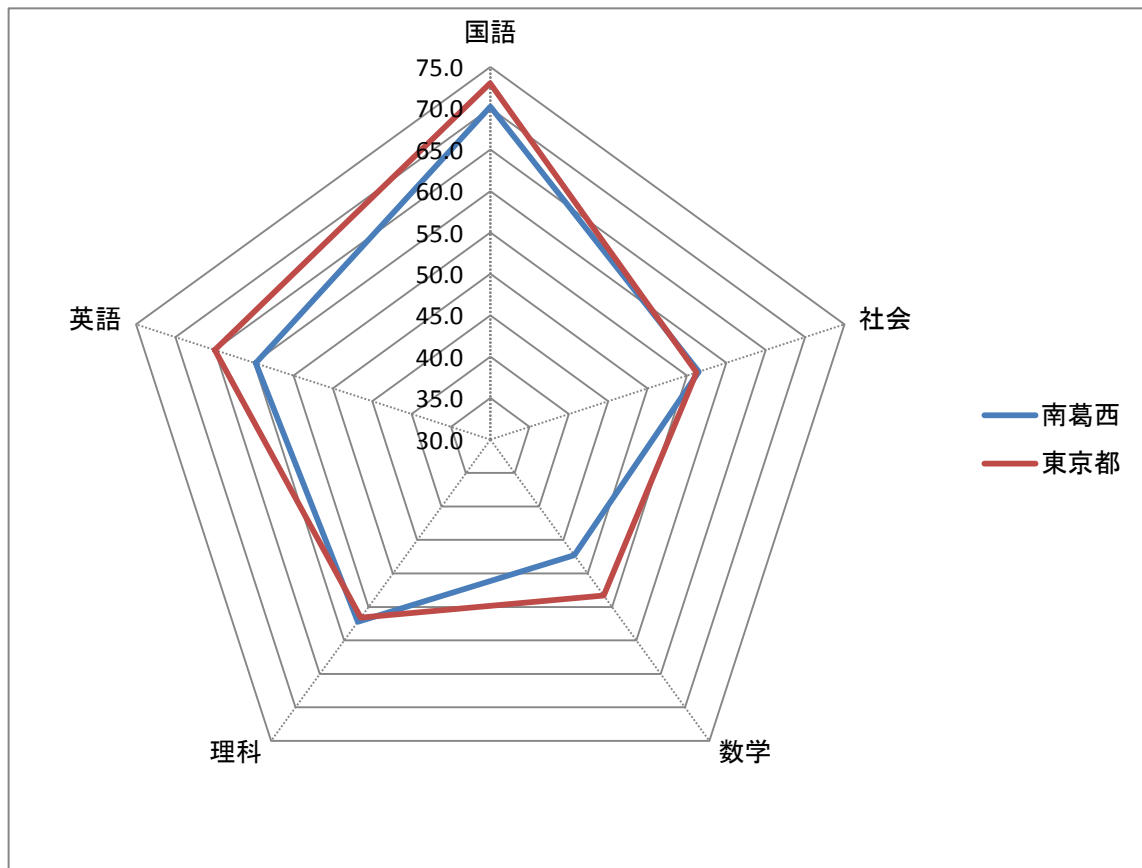


平成29年度

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」



<現状把握>

国語	A問題の観点のうち知識・理解が東京都の平均より-9.3%下回っている。また、関心・意欲・態度においても東京都の平均より-6.5%下回っている。知識・理解の学習への意欲が関心・意欲・態度の数値に影響していると考えられる。そのため、知識・理解の学習への意欲を持たせ、知識を定着させることが必要である。その他の観点は東京都の平均を僅かに上回っており、基礎・基本が定着しつつあることが伺える。
社会	全体的にみると東京都の平均とおなじくらいのポイントとなっている。Aの教科の内容は平均値と同じくらいということから、基礎学力的な部分は定着していると考えられる。Bの読み解く力に関する内容も同様なことといえる。
数学	全体的に都平均を下回ってしまっている。観点別に見ると、A問題の思考・判断・表現では4.6ポイント、技能では8.1ポイント、知識・理解では3ポイント低く、B問題の解決する力が約半分のポイントしかない。なので、知識・理解、技能の定着を図ることが基礎・基本を徹底させる上での急務であり、読解力を身につけ、問題を最後まで解決する力を付けさせる必要があると考える。
理科	A問題の観点のうち知識・理解が東京都の平均よりわずか0.53%上回っている。技能も東京都の平均より2.1%上回っている。関心・意欲・態度は東京都の平均より1.1%下回っている。基礎学力的な部分はほぼ定着していると考えられる。B問題では取り出す力が1.7%、読み取る力が2%、解決する力が0.6%都の平均を上回っている。
英語	特にA問題の関心・意欲・態度、知識・理解の項目の差が目立ってしまっている。校内の授業アンケートにおける意欲の高さと、問題として実際に解いた場合の結果の差が生じている。知識・理解の東京都の平均との差は、喫緊の課題と捉える必要がある。B問題の解決する能力の差もできるだけ少なくする必要がある。

<授業改善のポイント>

<p>【国語】 文法と漢字の学習をワークやプリント教材を定期的に用いて学習させる。ワークとプリント教材は繰り返し問題を解かせ復習させることで基礎・基本の定着を図る。また、日常生活において正しい文法、漢字を実際に使う場面や用例を提示する等の活動で学んだ知識が日常生活と関連していることを意識させ、生徒の興味・関心を広げる取り組みを実践する。</p>	<p>【社会】 ワークシートやワークを活用し、基礎・基本を定着させる。教科書・資料集などの活用の仕方を自ら考えてまとめることができるように指導していく必要がある。調べ学習でも、過程やまとめを大切にしていくとさらに思考・判断・表現が高まると考えられる。</p>	<p>【数学】 現在行っている習熟度別授業を継続し、基礎・基本の徹底を図るとともに、宿題などの家庭学習を進めていく。また、放課後の質問教室などを行っていくことで、数学が苦手な生徒に対するきめ細かいケアをしていく。</p>	<p>【理科】 実験・観察を多く取り入れた授業を継続し、話し合い活動を増やし、考察を行い、課題を掘り下げ、解決する力を養っていく。また、毎回の授業の前に確認小テストを実施し、前時の振り返りを行うことで基礎・基本の定着を図る。学習内容に即した日常生活と関わりのある話題を取り入れていくことで興味・関心を高める取り組みを行う。</p>	<p>【理科】 前年度の結果を受け、スピーチテストやスプリングコンテストの放課後補習など、習熟度別授業の特性を活かした活動を増やしたが、学んだ知識を運用できるまでには至っていない現状である。生徒自身による自発的な活動を続けると共に、質問形式の問題を実際に多く解かせるなど、得点力を伸ばすような教材の工夫と実践をしていく。</p>
---	---	--	---	--